

日置に、
幕末明治維新をたがわずねる。



日置市

「幻の宰相」

小松 帯刀

こまつ たてわき



旧吉利小学校門横にある、卒業生寄贈の像。児童を厳しくも暖かく見守っているようだ。

幻の宰相と呼ばれる小松帯刀。それは彼が類希なる才能と手腕を幕末の混乱期に家老として発揮しながらも、明治三（一八七〇）年に若くしてなくなったことを惜しんでのことである。

小松は天保六（一八三五年）喜入（現鹿児島市）領主の肝付兼善の三男として生まれ、政情不安定な幕末維新期に生き、活躍する。

のちに吉利（現日置市）領主であった小松家の養子となり、小松帯刀清廉と改名した。島津斉彬のもとでは火消隊長などになっている。斉彬の死後の文久元（一八六二）年には



▲小松帯刀が領主であった吉利の麓

側役に昇進して、大久保利通を重用するなどしながら島津久光・忠義を補佐した。文久二（一八六二）年からは家老として、倒幕に向けて薩長同盟や大政奉還、そして明治維新に尽力した。維新後は参与として版籍奉還を画策するなど、これからの期待される人材であったが、明治三（一八七〇）年に病気のため、三十六歳の若さで亡くなった。

安政	嘉永	天保
1858 五年	1855 二年	1835 六年
七月 斉彬が急死する。帯刀、火消隊長として斉彬の葬儀を警護する。	五月 尚五郎、江戸勤務を命じられる。	十月十四日 のちの小松帯刀、肝付家三男として誕生。
三月 帯刀と改名。火消隊長に命じられる。	五月 尚五郎、江戸勤務を命じられる。	幼名 尚五郎。
	一月二十七日 尚五郎、吉利領主小松清猷の跡継ぎとなる。	篤姫・坂本龍馬も生まれる。
	篤姫、近衛家の養女となり、第十三代将軍家定の御台所（正室）となる。	
慶応	元治	文久
1867 三年	1864 元年	1862 二年
一月 帯刀、城代家老に命じられる。	三月 グラバーの協力を得て薩藩英国留学生、出発。	四月 寺田屋事件
龍馬、京都で襲われ、薩摩に向かう。帯刀の屋敷や霧島の温泉で保養。	帯刀、グラバーと交渉し、二隻の船をイギリスから購入する。	八月 生麦事件
	生麦事件が原因で、薩英戦争が起る。	十二月 帯刀、家老に命じられる。
	長同盟が締結。	
	龍馬、京都で襲われ、薩摩に向かう。帯刀の屋敷や霧島の温泉で保養。	
	一月 京都小松邸で薩長同盟が締結。	
	三月 グラバーの協力を得て薩藩英国留学生、出発。	
	帯刀、グラバーと交渉し、二隻の船をイギリスから購入する。	
	生麦事件が原因で、薩英戦争が起る。	
	十二月 帯刀、家老に命じられる。	
	八月 生麦事件	
	四月 寺田屋事件	
	三月 帯刀、大久保らとともに上京。	
	五月 帯刀、側役となる。	
	一月 帯刀、長崎出張を命じられる。	
	元年 一月 帯刀、長崎出張を命じられる。	
	元年 三月 桜田門外の変	
万延	明治	天保
1860 元年	1876 九年	1849 二年
	十月 吉利の墓地（園林寺跡）に改葬。	お由羅騒動。
	七月十八日 帯刀、大阪で死去。（三十六歳）	島津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	三月 帯刀、領地である吉利の返上と家格返還を申し出て、版籍奉還の模範を示す。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	二月四日 帯刀、領地である吉利の返上と家格返還を申し出て、版籍奉還の模範を示す。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	四月 江戸城無血開城。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	十月 大政奉還	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	戊辰戦争が起る。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	四月 江戸城無血開城。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	十月 大政奉還	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	戊辰戦争が起る。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
	四月 江戸城無血開城。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。

- 用語解説**
- ◆ **お由羅騒動**（お遊羅騒動・高崎崩れ・嘉永朋党事件）
島津斉興の側室である由羅の子、久光を藩主にするため、正室の子、斉彬の廃嫡を目したとされる世継ぎ争い。
 - ◆ **薩長同盟**
1866年、倒幕のための薩摩藩と長州藩の政治的、軍事的同盟。
 - ◆ **大政奉還**
1867年、将軍徳川慶喜が、統治権を朝廷に返上することを申し出た政治的事件。
 - ◆ **戊辰戦争**
1868年から1869年にかけての、薩長を中心とする新政府軍と旧幕府軍との戦い。
 - ◆ **版籍奉還**
明治政府が実施した諸大名から天皇への領地と領民の返還。

明治	天保
1876 九年	1849 二年
十月 吉利の墓地（園林寺跡）に改葬。	お由羅騒動。
七月十八日 帯刀、大阪で死去。（三十六歳）	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
三月 帯刀、領地である吉利の返上と家格返還を申し出て、版籍奉還の模範を示す。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
二月四日 帯刀、領地である吉利の返上と家格返還を申し出て、版籍奉還の模範を示す。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
四月 江戸城無血開城。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
十月 大政奉還	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
戊辰戦争が起る。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
四月 江戸城無血開城。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
十月 大政奉還	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
戊辰戦争が起る。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。
四月 江戸城無血開城。	鳥津斉彬藩主就任。集成館事業開始。

吉利を あるく。

吉利郷は、文禄四（一五九五）年に禰寝院（現南大隅町と錦江町）から領地替えされてきた禰寝氏の私領地である。そのために、菩提寺である園林寺や十六代禰寝重長を御祭神にする鬼丸神社などは、旧領地にあつたものであるが、藩政時代に入るとお仮屋（領主館）は、現在の旧吉利小学校の敷地に設けられ、領内を治めていくことになる。その禰寝氏の享保二十（一七三五）年に当主となった二十四代清香は、祖先とされる平重盛が小松内大臣と呼ばれたことにちなんで、姓を小松に変える。禰寝時代から数えて、二十九代目となる帯刀（清廉）は、吉利郷に何度も足を運んでいる。それだけに吉利は、ゆかりの地として、小松家や禰寝氏に関する文化財が数多く点在しているから、散策も楽しむことができる。



旧吉利小学校（お仮屋跡）

小松帯刀の墓と園林寺跡

小松家の菩提寺でもある園林寺跡に小松家歴代の墓、そして29代帯刀も眠っている。曹洞宗の寺で本尊として禰寝から運んできた阿弥陀如来像があつたが、明治維新の際の廃仏毀釈でそのほとんどが失われてしまった。墓地へと続く道の入り口にある仁王像が、その不幸な歴史を物語っている。小松帯刀の墓は、妻お近と並んで吉利集落を見下ろす位置にある。またその横には昭和天皇より賜った石灯笼、近くには幕末の横綱であつた陣幕が奉納した石灯笼や小松が京都で愛した琴子の墓などもある。



▲園林寺跡入口の仁王像
▲小松帯刀（手前）と妻 お近の墓



小松帯刀ゆかりの地吉利周辺マップ



▲清浄寺の小松帯刀像



▲鬼丸神社の鳥居

独行の人・小松帯刀

志學館大学教授 原口 泉

小松帯刀は肝付家の三男として天保六（一八三五）年に生まれた。一所持の三男であるからいずれば同格以上の家格の養子となる定めであつた。ここに「小松幼若略歴」という史料が残されているのだが、小松の性格を知る上で大変興味深い。

「幼若略歴」によれば、幼少より儒学を横山安之丞に学んでいる。造士館の教授で、後に衆議院の門前で明治政府の腐敗に憤り自決する横山安武の父親、藩内一の学者であつた。十五歳の頃から本気で学問を志し、昼夜を問わず勉強に励んだ。かつ弟三人にも教え、御付の守役が勉強を教える必要がないほどであつた。ところが十七歳の頃から病気がちとなり、母親が勉強のしすぎであると大変心配した。そこで小松は琵琶を弾き始めたのである。そして今度は琵琶にのめりこんでしまった。やはり昼夜を問わない熱中ぶりに執事が心配し、先祖の例を引いて琵琶におぼれるものではないと進言した。すると小松は涙を流して琵琶の糸をかなぎり捨てて、二度と琵琶を手にすることはなかつた。これらの話から何事にも没頭する小松の人の柄が見て取れる。

またこの頃から若手下級藩士の集まりである精忠組の面々とも交流するようになる。小松くらの家格であるといふと普通であるが、一向に構わず一人を出掛けていく。そして保養のために温泉に浸っていると身分を明かさず、平たく人と付きあうことを心掛けた。このような「独行」が小松に多くの情報を与えた。

若くして斉彬の目に留まり、また藩主が忠義の時代になって大任を任せられる帯刀だが、それは学問に秀でていたことはもちろん、多くの人の意見を聞くことのできる耳を持ち、それを総合して決断する能力に長けていたからだと思われる。

苗代川（現日置市美山）の沈家に、古式ゆかしい立派な薩摩琵琶がある。沈家の伝承によれば小松帯刀愛用の薩摩琵琶だといふ。小松が亡くなったのは明治三年、そのころ薩摩焼を世界に向けて発信し絶賛を浴びていたのが、十二代の沈寿官である。おそらく小松から沈寿官に渡つたものであろう。



小松帯刀愛用の薩摩琵琶



Miyama マップP6

調所広郷ゆかりの地でもある苗代川(美山) 今も息づく薩摩焼の伝統の技



玉山神社



南京皿山窯跡



調所笑左衛門広郷・
村田堂元甫阿弥招魂墓

調所笑左衛門広郷・ 村田堂元甫阿弥招魂墓

江戸後期の薩摩藩における財政改革を成功させた調所広郷は、この美山(苗代川)においても窯業発展のために尽力し、南京皿山の創設などに力を入れている。同時にこの地において樟脳(クス)の木が原料の薬品の製造にも着手していることから、地域の人々が招魂墓を建てることになった。改革は成功したものの死後は一時期不名誉の境遇にあっただけに、美山の人々の気持ちには深いものがある。隣りに眠る村田堂元甫阿弥は、調所の指示を受けて陶工たちを指導した人物である。

南京皿山窯跡

この地域にある古窯の中では最も規模が大きく、弘化三(一八四六)年に調所広郷らの協力によって開窯した。南京とは中国から渡来した磁器のこと、そして皿山とは、皿を焼くところとの表現である。窯跡は二基が並列し、周辺には多数の磁器片を確認することができる。約二十一年間にわたり使用されたが、明治四(一八七二)年の廃藩置県の頃に廃窯となった。

玉山神社と調練場

朝鮮陶工たちの故郷の神「檀君」をまつたのが始まりとされている。その後、明治時代に入ってから、ニギノミコトやスサノオノミコトなどを合祀して現在に至る。この神社の第三鳥居から見える台地(現在は茶畑)は、慶応二(一八六六)年に、苗代川衆中が、戊辰戦争に従軍するために西洋式軍隊の訓練を行った場所である。ちなみに従軍記念碑は、第四鳥居の横にあり、調所の招魂墓も玉山神社参道脇にある。

島津義弘公の祀られるまち、 質実剛健の気風の土地に志士が集う



Ijyuin マップP5



有馬新七の墓



平野国臣歌碑

平野国臣歌碑

尊王攘夷とは?

もともとは中国の儒学に起源を持つ、統治者である王室を尊敬し、異民族を打ち払うという政治思想。既存の支配体制の強化のための理論であったが、嘉永6(1853)年のペリー来航以降の幕府の外交姿勢への反発などから、朝廷を政治の中心に据え、攘夷を行わない幕府を倒そうというスローガンへと変化していった。

勤皇で知られる幕末の志士・平野国臣は、万延元(一八六〇)年の十月に倒幕工作のために薩摩入りした。しかし願いはかなわず、帰途に着く途中、この伊集院の地から眺めることのできる桜島に心情を例え、有名な歌を残した。それが「我が胸の燃ゆる思ひに比ぶれば煙はうすし桜島山」である。現在、碑の立つ位置からは、桜島の頂上付近を眺めることができる。

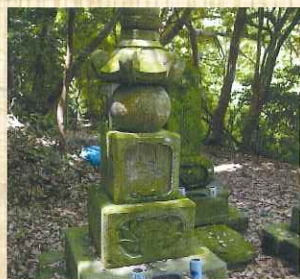
有馬新七 ゆかりの文化財

文政八(一八二五)年に、伊集院郷士坂木四郎兵衛正直の子として生まれるが、父が鹿児島城下士の有馬家を相続したため、有馬姓を名乗ることになる。幼少期から文武に励み、天保十四(一八四三)年には江戸にも遊学している。その頃から尊王論を説くようになった。その後、西郷・大久保らとも親交を深めていく。文久二(一八六二)年の伏見寺田屋において、京都所司代などを襲撃する計画を進めていたが、中止を求め薩摩藩士との同志討ちに遭い亡くなる。現在、その墓と誕生地が大切に守られてきている。



Hioki マップP6

江戸時代を通じて 優秀な人材を数多く輩出した日置島津家



赤山靱負の墓



吉富山大乗寺跡

日置島津家とは？

日置島津家は15代太守島津貴久の三男であり、戦国期に活躍した島津歳久を初代にして始まる。幕末期の藩主である島津斉彬のもとで活躍する島津久徴、お由羅騒動(P1)で切腹した赤山靱負、西郷隆盛と親交があり西南戦争で亡くなった桂久武は兄弟であり、みな日置島津家の家系である。日吉地区には、ゆかりの墓が点在しているので、彼らのエピソードとともに訪れてみてはいかがだろうか。

吉富山大乗寺跡

きちふさん だいじょうじあと

明治初年の廃仏毀釈によって建物などは現存していないが、日置島津家の菩提寺ということに歴代当主の墓などが並ぶ。初代となる島津歳久の墓が墓石群の中央に位置し、苔むしたたたずまいが趣深い。墓前には、元文二(一七三七)年に寄進された巧みに刻まれた龍形の手水鉢がある。またその背後には、島津斉興の家老であった十二代島津久風の墓や、島津斉彬のもとで活躍することになる十三代島津久徴の墓も並ぶ。

赤山靱負の墓(桂山寺跡)

あかやまゆきえ けいざんじあと

赤山靱負は日置島津家の十二代島津久風の二男で、藩においては槍奉行などを務める。嘉永二(一八四九)年に起こった島津斉彬の藩主就任をめぐるお家騒動であるお由羅騒動に連座して翌年の三月に切腹を命じられる。赤山靱負は二十八歳であった。その際、日置島津家または赤山家に「用頼み」として出入りしていた西郷隆盛の父である西郷吉兵衛に、血染めの肩衣を与えている。そしてこの肩衣は、西郷隆盛へと与えられ、その後の行動に大きな影響を与えたとされている。



Fukiage マップP6

西郷さんも愛した温泉の湧くまち、 そして美しいまち吹上



南洲翁来遊の碑



西郷どんの湯・中島温泉旅館
(宿泊者のみ)



日本三大砂丘 吹上浜

天昌寺跡(永吉島津家墓地)



島津久敬の墓(天昌寺跡)

永吉島津家は、十五代島津貴久の四男である家久を祖とするもので、二代には関ヶ原の戦いの際に、島津義弘の身代わりとなった島津豊久がいる。この永吉島津家の菩提寺が天昌寺である。明治初年の廃仏毀釈によって廃寺となり、現在は歴代の当主の墓などが並ぶ墓地のみが残っている。この墓地のなかには、今和泉島津家より養子に入った久敬(篤姫の兄であり、島津忠剛の二男)の墓もある。ただ久敬については、様々な事情が交錯しており、当主でいる期間は、わずか三年と短い。

吹上温泉

藩政時代には「湯之浦温泉」とも呼んでいた。その頃の地誌「三國名勝図会」によると、「湯池四を設く、灰汁の気あり、能く疝癰を治す」とある。また明治三(一八七〇)年には、西郷隆盛も湯治に訪れていて、弟の小兵衛が東京より連れて来た洋犬を狩りに用いたが、役に立たなかったという。西郷隆盛は明治七(一八七四)年にも訪れたともいわれ、お気に入りの湯治場であったようだ。昭和二(一九二七)年に東郷平八郎の謹書により建立された南洲翁来遊の碑がある。また小松帯刀も、万延元(一八六〇)年の十月十三日から十一月一日まで、湯治に訪れている記録がある。

幕末明治維新をたずねる。

日置市モデルコース

日置市は薩摩半島のほぼ中央に位置し、日本三大砂丘の一つで、およそ四十五キロにもおよぶ白砂青松の吹上浜と東シナ海に面しています。

これまで「幕末明治維新をたずねる」と題し日置市と関係の深い偉人や史跡を紹介しました。ほかにも薩摩藩の基礎が形成される中で欠かせない島津忠良（日新）公や子の貴久公が活躍し、また忠良公の孫で関ヶ原の戦いで名をはせた義弘公の威徳をしのぶ妙円寺詣りが行われる地としても知られています。

また伝統的工芸品である薩摩焼や良質を誇る湯之元温泉や吹上温泉など貴重な資源を有しています。

地勢や気候を生かした山の幸や海の幸が豊富にそろった物産館も充実。史跡を巡りながら、休憩がてら立ち寄ってはいかがでしょうか。



ひまわり館

マレーシアの雑貨もあるよ
日置市吹上町中之里2939-1
TEL 099-296-2519



城の下物産館

名物「しんご団子」をどうぞ
日置市日吉町日置380-1
TEL 099-292-5890



江口蓬莱館

海の幸の宝庫
日置市東市来町伊作田7425-5
TEL 099-274-7666



チェスト館

野菜類が新鮮格安
日置市伊集院町竹之山220-1
TEL 099-273-9525

- 鹿兒島市街地 車 40分
- 美山 P3
- 湯之元温泉(入浴) 車 5分
- 江口蓬萊館(お買物) 車 7分
- かめまる館(昼食) 車 15分
- 大乗寺跡 車 3分
- 吉利散策 車 5分
- 大乗寺跡 車 25分
- 子エスト館(お買物) 車 20分
- 鹿兒島市街地スタート

- 吹上温泉(入浴) 車 50分
- 天昌寺跡 車 10分
- 吉利散策 車 5分
- 大乗寺跡(日置島津家墓地) 車 3分
- 赤山靱負の墓 車 5分
- 江口蓬萊館(昼食) 車 15分
- 美山 車 10分
- 伊集院・有馬新七の墓 車 15分
- 鹿兒島市街地スタート 車 30分

日置・歴史
のんびりコース

幕末明治維新
たつぷりコース



吉利物産店
日置市特産品「緑竹」のお買ひ求めはここ
日置市日吉町吉利1022
TEL 099-292-5256

吹上浜 渚のあま塩館
塩づくり体験が人気
日置市吹上町入来4099
TEL 099-296-4747

かめまる館
隣のかめまる庵の手打ちそばは絶品
日置市吹上町永吉15446
TEL 099-299-3747



歴史と文化のまち日置市では祭りも多彩。伝統ある祭りから、近年取り組みの始まった郷土の美しさを知る祭りまで、一度は訪れたいものばかりだ。



妙円寺詣り

鹿児島三大行事のひとつ。関ヶ原の戦いにおいて敵中突破を取行した島津義弘を祭る徳重神社（はいぶつぎしやく 廃仏毀釈以前は妙円寺）にお参りする行事。太平の世でもある江戸時代において、士気を鼓舞し、心身を鍛錬することを

目的として鹿児島城下の武士によって始められた。現在も鎧兜に身を固めた人々など多くの参拝者で賑わいを見せている。



【期日 / 10月 第4日曜日と前日】



せつもとべ

約420年くらい前から地域に伝わるといわれるお田植え祭りのひとつ。田植え前の御神田ごしんでんにおいて、若い衆が円陣を組みながら飛び跳ねるといふもの。これは、土をこねる足踏み耕と害虫を踏み潰す意味があるといわれる。祭りの際、

八幡神社から登場する大王殿（デオドン）は必見。



【期日 / 6月 第1日曜日】

※せつもとべは「精一杯とべ」の意



美山窯元祭り

慶長3（1598）年に朝鮮より連れ帰った陶工らが移り住んだ美山（苗代川）でおこなわれる。薩摩焼のイベントとしては最大のお祭り。地域に点在する窯元では、様々なメニューや企画が用意されていて、薩摩焼のふるさとをまるごと楽

しむことができる。県内外から多くの薩摩焼ファンが訪れ、秋の一日を楽しんでいる。



【期日 / 11月初旬】



山神の響炎

地域活性化を目的に住民の手づくりで始まったこのイベントには、県内外から多くの人々が訪れる一大イベントに成長した。夕焼けで赤く染まる頃、一斉にたいまつに炎が灯されると、のどかな田園地帯に1万本ものたいまつが光の海をつむぎ出し、見る者を幻想的な世界へと誘う。

ステージでは音楽や舞踊など多彩なイベントが繰り広げられ、響く音に心を熱くし、ゆらめく炎に心を癒される秋の一大イベントだ。



【期日 / 10月初旬】

祭の宝庫、日置市へ。



日置市役所 〒899-2592 鹿児島県日置市伊集院町郡一丁目100番地

Tel.099-273-2111 Fax.099-273-3063

東市来支所 〒899-2292 鹿児島県日置市東市来町長里87番地1

Tel.099-274-2112 Fax.099-274-4074

日吉支所 〒899-3192 鹿児島県日置市日吉町日置377番地1

Tel.099-292-2112 Fax.099-292-3055

吹上支所 〒899-3301 鹿児島県日置市吹上町中原2847番地

Tel.099-296-2112 Fax.099-296-3299

<http://www.city.hioki.kagoshima.jp>